

新庁舎建設実施設計の概要まとまる

—防災・環境・ユニバーサルデザインに配慮

新庁舎建設事業は、基本設計に続き、詳細な仕様を決定する実施設計を進めてきました。このたび、実施設計がまとまりましたので、その内容をお知らせします。

1 建築概要

	新庁舎	附属棟(公用車車庫)
(1)建設地	日石町 3 街区	日石町 4 街区
(2)敷地面積	14,186.63 平方メートル	4,639.07 平方メートル
(3)延床面積	10,273.75 平方メートル 〔新庁舎：9,990.58〕 〔その他：283.17〕	1,450.14 平方メートル
(4)構造・階数	鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造 免震構造、地上 4 階建て	鉄骨造 耐震構造 平屋建て

2 配置計画

- ・ 3 街区に新庁舎、4 街区に附属棟(公用車車庫)を配置します。
- ・ 新庁舎は西側に配置し、東側に約 190 台分の駐車場を確保します。

3 各階の機能

- ・ 1 階：来庁者の利用頻度が高い窓口部門、市民ロビー、多目的会議室、売店、FM コミュニティ放送（ピッカラ）の演奏所、議場
- ・ 2 階：議会機能を集約、来庁者の利用頻度が高い窓口
- ・ 3 階：執務室、災害対策本部などの危機管理対策ゾーン、市長・副市長室
- ・ 4 階：庁舎の維持管理に必要な電気・機械室など

4 防災計画

地震等の災害に耐える構造とし、災害時においても庁舎機能を継続して利用可能な設えとします。

- ・ 免震構造とし、地震による建物損傷を最小限に抑えることで、業務継続を可能とします。
- ・ 3 階に災害対策本部などの危機管理対策機能を集約し、災害時の迅速な対応を可能とします。

- ・非常用発電機を備え、3日連続運転が可能な燃料を備蓄します。太陽光発電設備、ガスコージェネレーションを備え、商用電源途絶時においても発電を継続可能なシステムとします。
- ・浸水対策として、1階の床レベルは隣接するアルフォーレのレベルと合わせ、標高4.3メートルとします。
- ・電気室、非常用発電機室は4階に設け、浸水被害がないようにします。

5 環境計画

自然エネルギーを積極的に活用し、環境に配慮した庁舎とします。

- ・エコボイドによる自然換気や自然採光の積極的な利用
- ・太陽光発電システム、蓄電池の採用
- ・地中熱の利用による通路の融雪、空調の熱源利用
- ・雨水のトイレ洗浄水利用

6 ユニバーサルデザイン計画

年齢・性別・国籍・障害の有無などにかかわらず、誰にでもわかりやすい空間を計画します。

- ・東口に総合案内を設けるとともに、西口と東口にはコンシェルジュを配置します。また、窓口呼出案内システムを導入し、簡潔で分かりやすい窓口運用を目指します。
- ・2カ国語表記、ピクトグラム、見やすい配色を採用したサインを計画し、目的地までの動線を明確に分かりやすくします。
- ・車いすの方や高齢者に配慮したおもしろいやり駐車場を10台配置します。
- ・オストメイト、ユニバーサルシート、フィッティングボードを配置した多機能トイレを設置します。
- ・音声案内、点字板、車いす対応のエレベータを設置します。

7 今後のスケジュール

平成30年6月：発注手続開始、10月：工事着工

平成32年11月：竣工

平成33年1月：開庁

8 事業費（予算額）

	金額(千円)	備考
事業費総額	7,127,119	建設工事費、工事監理委託費
(財源内訳) 国庫支出金	277,560	エネルギー構造高度化・転換理解促進事業費補助金
地方債	1,121,900	合併特例債、県地域づくり資金
基金	4,005,966	庁舎整備基金、地域振興基金
一般財源	1,721,693	